

平成23年度 第1回進路説明会資料

平成23年3月9日（水）

**進路を考えると、自分の生き方を考えることである。
自分で希望、自分で選択、自分で決定する！**

1 3年生の9月までに

① まず、自分の将来について考えよう。

A 大学進学を考えている人

ア 基本的には普通科高校への進学が基本となります。

イ 最近では専門学科（工業科・商業科など）や専修学校（高校卒業資格取得）からも大学や専門学校への進学が増加しています。

B 高校卒業の資格を取得し、卒業後就職したいと考えている人

ア 基本的には高校の専門学科や専修学校（高卒の資格取得可能）への進学となります。

イ 希望職業や職種の方向性を決めること。

ウ 自分が身に付けたい技術を学べる学校を調べること。

C 学校の勉強よりも社会に出て頑張りたいと考えている人

ア 仕事内容や勤務条件を確認し、自分の適性にあった職を選ぶこと。

イ フリーターは生活への保障がなく、あくまでアルバイトなので注意が必要。

② 自分で調べよう。

まず、自分の将来の夢が決まった人はどんな職業があるのか、また、それはどんな内容の仕事か、そして、その職業に就くためにはどんな進路を進めばよいのかを調べましょう。きっと自分が考えているよりも多くの道があることに気がつくと思います。

次に、高校や専修学校への進学を考えている人は、パンフレットやガイドブックで自分の希望する学科の内容について調べましょう。自分で考えている内容とは大きく違ったり、学校によっては学ぶ内容が異なる場合があります。

その学校を知る一番の方法は実際に自分の目で確かめることです。毎年、各上級学校で体験入学が行われます。公立は1学期～夏休み、私立は1学期～2学期にかけて行われるので、積極的に参加し、進路選択の判断材料にして下さい。

③ しっかり勉強しよう。

就職するから勉強しなくてよいと考える人もいますが、勉強は進学のためだけにあるわけではなく、勉強した結果が将来の皆さんの生活・仕事に必ず役立ちます。就職するつもりだった人が高校進学に希望を変更することもあります。自分の進路選択の道を広げていくためにも、しっかりと勉強をして、力をつけておくことが最善の方法です。

また、高校を選択するときの目安となるものに通知表の評定がありますが、定期テストはもちろんのこと、授業への取り組みや提出物も評定に大きく関わってきます。2学期は1学期分と2学期分の合計、3学期は全学期の合計で評定が決まります。つまり、1学期のがんばりが2、3学期の評定に大きく影響するので、4月のスタートを大切にして下さい。

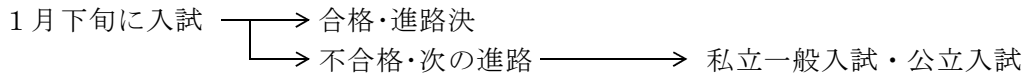
2 進路選択の概要

A 就職

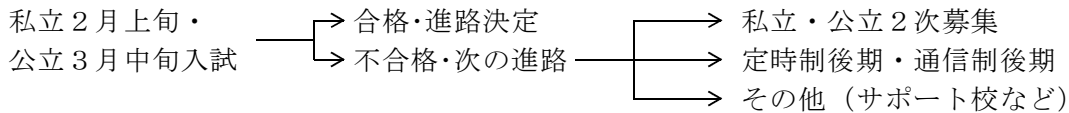
- 求人一覧表や新聞広告等で希望事業所を探す（10月）→ 事業所見学 → 就職相談（11月下旬）職業安定所で行います → 就職試験（1月）
- 定時制進学希望者は3月に入学試験があります。

B 進学

- ① 私立高校、各種専修・専門学校推薦（12月初旬に受験校決定）



- ② 私立一般・公立併願（12月初旬に受験校決定。※公立高校は1月下旬に受検校最終決定）



3 入試制度のあらまし

① 就職

- 就職については、できる限り（縁故就職も含む）職業安定所を通して、本人の適性や能力、職種の希望を重視して進めていきます。
- 社会人になるわけですから、働くことの厳しさをしっかり自覚し、入社後の適応について十分に考えることが不可欠です。
- 定時制高校への進学については、昼間働いて夜勉強するわけですから、生半可な気持ちではやっていけません。職場についても定時制に通うことに理解を示しているところを考えなければなりません。

② 進学

◇ 各種専修・専門学校、私立高校の推薦入試

- 「推薦」とは中学校として学力、人物を保証して推薦するということです。中学校と高等学校との信頼関係で成り立っています。推薦を希望すれば、すぐに「中学校として推薦」ではありません。学力、人物について「推薦委員会」を開いて協議し、決定をします。
- 合格したら、必ずその学校へ進学することが条件です。
- 私立高校の場合、推薦入試の募集人員は定員の80%程度です。（一部の学校を除く）
- 2学期までの成績と学校生活をもとに、推薦（推薦委員会）で決定します。その際、問題になるのは、日頃の学校生活（生活態度、欠席・遅刻日数等）です。今から、かなり意識した生活が要求されます。

◇ 私立一般入試

- 募集人員は定員の20%程度になるので、推薦入試より合格ラインが高くなります。
- 入試教科は、3教科又は5教科です。面接の実施については学校により異なります。
- 当日の試験だけで合否を決める学校と、2学期の成績（調査書）と当日の試験によって合否を決める学校とがあります。
- 複数受験ができますが、2校程度がよいかと思います。無理な日程を立ててしまうと、かえって体力的・精神的に疲労しまい、実力を発揮できないことがあります。

◇ 公立推薦入試

- すべての公立高校において、各高校独自の推薦基準に基づいて実施されます。
- 推薦の可否については、本人の申し出に基づき、推薦委員会で審議・決定します。
落ち着いた学校生活を送れているとともに、当該高校への強い入学の意志と当該高校の教育課程を履修する学力を有することが大前提です。
- 公立推薦入試は不合格者が多く出ます。私立の場合とは違って「推薦」＝「合格」ではありません。また、3分間の自己表現など準備に多くの時間が必要になりますので、勉強のリズムを崩さない努力が必要です。

◇ 公立一般入試

- ・ 評定合計×2（90 点満点）と当日テスト（100 点満点）と面接が合否の材料となります。
- ・ 2 校受検できますが、1 校でも構いません。
- ・ 私立一般の受験校を決定する関係から、2 学期の成績をもとに、1 2 月の段階でほぼ受験校を決定していきます。1 月下旬に最終決定します。
- ・ 受験校の決定について、中学校では余裕をもって高校生活を送れることを前提にアドバイスをしていきます。
- ・ 私立高校を含めて、志望順位をしっかりと考えていく必要があります。
- ・ 合否決定の際、第 1 志望・第 2 志望による有利・不利はありません。

◇ 私立・公立 2 次募集

- ・ 合格者が募集定員に満たない高校、学科において実施されます。
- ・ 出願の条件は、「県内の高校を志願・受験し、いずれの高校にも合格しなかった者」です。

※ 留意事項

- ・ 公立・私立高校を含め、美術科・音楽科などの専門学科においては特別検査（実技試験）を実施する学校があります。早めに特別検査に対しても準備を進める必要があります。

③ 進路日程（来年度の入試日程等はまだ未定ですので、今年度の流れをのせておきます。）

4 月	入試の結果報告（育友会総会）	1 月	私立・各専受験料振り込み 公立推薦希望者受付
5 月	第 1 回進路希望調査 教育相談（進路相談）		第 5 回進路希望調査 就職選考試験
6 月	高校，専修・専門学校体験入学見学会 第 2 回進路希望調査		面接指導 進路相談
7 月	第 2 回進路説明会（高校の先生より） 高校，専修・専門学校体験入学見学会 個人懇談会（進路相談）		私立・各専推薦入試 岐阜県私立一般入試
8 月	先輩の進路に学ぶ会 高校，専修・専門学校体験入学見学会	2 月	三者懇談会 愛知県私立・各専一般入試
9 月	第 3 回進路希望調査 高校，専修・専門学校体験入学見学会		面接指導 公立高校推薦入試
10 月	教育相談（進路相談） 高校，専修・専門学校体験入学見学会 第 3 回進路説明会	3 月	卒業証書授与式 通信制前期選抜 定時制前期選抜
11 月	第 4 回進路希望調査 教育相談（進路相談） 高校，専修・専門学校入試説明会 面接練習 進路対策マナー講座（外部講師）		公立一般入試 A グループ 公立一般入試 B グループ 公立合格発表 定時制後期選抜
12 月	進路相談 三者懇談会（就職，私立学校確定） 高校，専修・専門学校入試説明会 公立推薦希望者説明会		公立・私立 2 次選抜 通信制後期選抜